第１学年　道徳科学習指導案

１　主　題　名　働くということ　Ｃ－（13）勤労

２　教　材　名　幸せな仕事って　出典「とびだそう未来へ　中学道徳１」

３　本時の学習

(１)　ねらいとする道徳的価値

１年生の時期には将来の生き方について漠然としか想像できなかったり，将来の夢や目標がなかったりという生徒が少なくない。本時の学習を通して，自分の将来や勤労についてイメージを持たせ，自らの働く姿について考えさせたい。

(２) 学習課程

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段階 | 学　　習　　活　　動 | 教師の支援及び意図 |
| つかむ(10分) | １　「いつから」働こうと思っているか話し合う。　　　　　　　　　　　　＜個人→全体＞２　１で考えたタイミングで働きたいのはなぜか考える。　　　　　　　　　＜個人→全体＞ | ○　まだ決まっていない人が多いと思われるため，方向性などでもよいと助言する。○　「いつから」という発問で，非現実的なものではなく，現実的なものとして捉えさせる。 |
| ふかめる(32分) | ３　Ｐ116，２行目までの範読を聴く。＜一斉＞４　ここまでで線を引いた文を話し合う。　　　　　　 ＜個人→グループ→全体＞・　夢としてはじめから就きたいものではなかったが，やりがいは後からきた。等５　続きから最後までの範読を聴く。　＜一斉＞６　４と同様に話し合う。＜個人→グループ→全体＞　　・　収入はあまり多くないかもしれないが，お客様の心に寄り添えて嬉しい。等７　この二人はなぜ働いているのかを考える。＜一斉＞８　将来どういうふうに働きたいか考える。＜個人→全体＞　　・　お金を稼ぐことも大事だが，人の役に立ったり，人に感謝されたりするように働きたい。 | ○　「共感した・心に残った」文に線を引きながら聴くよう指示する。○　グループ活動では，なぜその文に線を引いたのか，理由を述べながら話し合うよう促す。○　３，４と同様の支援をする。○　４，６は全体で共有するために板書し，７に繋がるよう意識させる。○　お金や自分のためだけでなく，喜びや人のために働いていることを捉えさせたい。自分は将来どういうふうに働きたいのか◯　考えが深まらない生徒には，学んだことを生かして，さまざまな視点から働くことについて考えるように助言する。 |
| あたためる(8分) | ９　教師の説話を聞く。　　　　　　　＜一斉＞10　職場体験学習にどう取り組み，何を学びたいのかについて考える。　　　　　　　＜個人＞　　・　今までお金を稼ぐ以外の価値観をもっていなかったので，職場体験学習を通して，働くことの意義をたくさん見つけられるように取り組みたい。 | ○　一つの価値観に誘導しないように注意するとともに，２年生で行う職場体験学習についてもふれる。○　職場体験学習を活用して，本時の学習内容をより自分事にし，本時の学習を生かした振り返りとなるようにする。評価ア【ノート】 |

(３)　評　価

ア　働くことに対して自らの考えを広げ，学んだ道徳的価値をこれからの生活に生かしていこうという意欲をもつことができたか。　　　　　　　　　　　　　　　　　【実践意欲と態度】